学校番号	Ｔ０２０４

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	４年次
使用教科書	国語表現　改訂版　（大修館書店）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・国語表現では、書く力や話す力を身につけるための学習を行います。
・前期には、書くことを中心に、整った文の書き方や、履歴書での自己 PR 方法などを学びます。また敬語についても学習します。
・後期には、話すことを中心に、議論を重ねて結論を出す練習や、人前で話す練習を行います。
・国語表現では、持っている国語力を実生活の中で活かしていく方法を学びます。そのため、授業の中に実践を多く取り入れます。そうした授業の中で取り組む実践課題も考査と同様、評価において重要なものとなります。

２　学習の到達目標

・　目的や場に応じて国語で適切かつ効果的に表現することができる。
・　進んで表現しようとすることによって、自ら社会生活の充実を図ることができる。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.関心・意欲・態度	b.話す・聞く能力	c.書く能力	d.読む能力	e.知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上をはかろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		伝統的な言語文化および言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。
評価方法	・行動の観察 ・記述の確認（提出物等）	・行動の観察（発表のパフォーマンス等）	・授業内課題等 ・定期考査		・行動の観察 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d	e		
前期	書いて伝える	・整った文を書く ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方	・仮名遣い等の表記 ・係り受け ・文末表現 ・接続詞　等	○		◎		○	a：積極的に自身の言葉で表現しようとしている。 c：整った文を書くことができる。 e：悪文と良文の違いがわかる	a：行動の観察と確認 c：授業内課題及び定期考査 e：定期考査
	自己PRと面接	・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・志望動機をまとめよう	・マップ法 ・履歴書等の志望動機の書き方　等	○		◎		○	a：自身をしっかりと見つめることができる。またそれを元に、考えたことを積極的に自身の言葉で表現しようとしている。 c：効果的な言葉を用いて自己PRを行うことができる。 e：マップ法等の技術を用いてアイデアを集めることができる。	a：行動の観察と確認 c：授業内の課題 e：行動の観察と確認
	敬語のまとめ	・敬語	・尊敬語 ・謙譲語 ・丁寧語	○				◎	a：尊敬語を身につけようとしている。 e：場面に応じて適切な敬語を使うことができる。	a：行動の観察と確認 e：定期考査

後期	会話・議論・発表	・議論して結論を出す ・ディベートを楽しむ	・ショートスピーチ ・グループ内で議論し根拠を明確にした上で結論を出す ・資料から情報を読み取り、グループ内で情報を共有する ・ディベート ・模擬裁判 等	○	◎			○	a：自ら積極的に議論に参加することができる b：自身の意見を明確な根拠を持って述べることができる。また、他人の意見を的確に聞き取ることができる。 e：ディベートのルールや裁判員制度などを理解している。	a：行動の観察と確認 b：行動の観察と確認 e：定期考査
	魅力的なポスターを作ろう	・魅力的なポスターを作ろう	・コピー ・５Ｗ１Ｈ 等	○		◎		○	a：積極的に創作活動に取り組むことができる。 c：必要な情報を適切に組み込みながら、ポスターを創作することができる。 e：５Ｗ１Ｈ等、記事を書く上で重要なことを理解している。	a：行動の観察と確認 c：授業内課題 e：定期考査、授業内課題

※　表中の観点について　a.関心・意欲・態度　b.話す・聞く能力　c.書く能力
d.読む能力　e.知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することになるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。